

Title	2003年度後期基礎物理学研究所研究会「動力学視点からの地形進化の研究」
Author(s)	
Citation	物性研究 (2004), 82(3): 429-430
Issue Date	2004-06-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/97825
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

研究会報告

(YITP-W-3-17)

2003 年度後期基礎物理学研究所研究会

「動力学視点からの地形進化の研究」¹

2003 年 12 月 4 日 (木)～5 日 (金)

京都大学基礎物理学研究所

本研究会は、近年発展をとげつつある非線形物理学の手法を用い、従来の個別的かつ定性的な研究に重点がおかれてきた地形発展の問題を、より普遍的かつ定量的な側面からとらえていくための新しい手法、すなわち「理論地形動力学」あるいは「計算地形物理学」とでも呼べるものを構築するための研究活動²の一環として開かれた。砂丘地形、惑星地形、噴火現象、液状化現象、侵蝕地形など、様々な地形・現象に関する招待講演を軸に、普遍性や基本メカニズムを追求する物理的な視点を持ち込むことの可能性と、様々なスケール／環境／物質に関わる諸現象を同一の枠組でとらえるための方法論に関する活発な議論が行なわれた。

世話人：西森拓 (大阪府立大学)
小西哲郎 (名古屋大学)
水口毅 (大阪府立大学)
柳田達雄 (北海道大学)
狐崎創 (奈良女子大学)

¹ <http://www.ms.osakafu-u.ac.jp/~gutchi/geomor/geomor3.html>

² 計算理論地形懇談会のこれまでの活動内容および今後の予定等は以下の URL にて参照出来ます。
<http://aurora.es.hokudai.ac.jp/yanagita/morphodynamics/html/index.j.html>

《プログラム》

- 12月4日 13:30-13:45 [世話人]
はじめに
- 13:45-14:45 遠藤 徳孝(大阪大学)
「三日月型砂床形態から流体環境復元の可能性」
- 15:00-16:00 出村 裕英(会津大学)
「火星の風成地形・特徴とその意味」
- 16:15- ポスター・ショート講演
勝木 厚成(大阪大学)
「バルハン砂丘の衝突、合体、分裂」
水口 毅(大阪府立大学)
「方向性破壊と角柱構造」
山崎 義弘(早稲田大学)
「On the collective motion of particles in a diffusion field」
柳田 達雄(北海道大学)
「河川の形態形成の数理モデル」
西森 拓(大阪府立大学)
「砂丘形成のいろいろな模型」
前田 真秀(大阪府立大学)
「鍾乳洞におけるつらら石形成のモデル」
- 12月5日 09:00-10:00 小屋口剛博(東京大学)
「マグマの上昇モデルと噴火タイプ」
- 10:30-11:30 納口 恭明(防災科学技術研究所)
「密閉容器内で再現する地盤液状化現象各種」
- 12:00-13:00 ビデオ／フォトセッション
- 13:00-13:30 藤本 仰一(東京大学)
「中国黄土高原のトンネル型土壌侵食」
- 13:45-14:15 松永 光平(東京大学)
「黄土高原における侵蝕過程とその分布」
- 14:30-15:00 [世話人]
おわりに